



合併10年記念式典を開催

～ひとつになって10年、そして明日へ～

合併10年記念式典を2月1日、市民文化会館で開催しました。

オープニングセレモニーでは、新高山市と時を同じくして生まれ、今年度10歳になる市内19校の小学4年生約800人が「高山市の歌」と「ふるさと」を歌いました。日ごろ別々の学校に通う児童が、心をひとつに元気な歌声をホール全体に響かせました。

式典では来場した約1700人を前に、國島市長が「この10年間で、『個性ある地域の連携と協調』を基本テーマとして、恵まれた自然や、伝統文化など地域資源を守り、市民が一体感と連帯感を持ち、安らぎと心の豊かさを感じながら生活できるまち



づくりをすすめてきました。本日の式典を契機に、今まで以上に夢と希望を持ち、安心して潤いのある生活ができる高山市を築いていくため、『市政の主人公は市民一人ひとり』の基本姿勢を堅持し、市民の皆様の思いと声を生かした市政を積極的に推進していきます」と式辞を述べました。

その後、合併以降10年間の出来事などをまとめた映像「ひとつになって10年」映像で振り返る合併から10年」を上映し、10年間の歩みをダイジェスト映像で振り返りました。

映像上映に引き続き、名古屋芸術大学による飛騨春慶弦楽の演奏が行われました。この弦楽器は「飛騨高山文化芸術祭こだま」2013」で製作されたもので、会場は、その美しい音色に包まれました。